

大東文化大学 東洋研究所所報

2021.7 No.75

目次

巻頭言 「研究のきっかけ」 小塚 由博……………1	新刊案内……………10
2021 年度 東洋研究所共同研究課題……………2～3	2020 年度 発行 「東洋研究」……………11
2020 年度 東洋研究所共同研究班活動報告…4～7	2021 年度
東洋研究所国際交流講演会開催一覧……………8	東洋研究所 秋の公開講座のお知らせ……………12
2021 年度 研究所 名簿……………9	

研究のきっかけ

東洋研究所 兼担研究員 小塚 由博

私が大東文化大学に関わりを持つようになって、来年（2022年）でちょうど30年となる。そこで私が大学に入り、研究するきっかけとなった話を中心に、東洋研究所の研究員となるに至るこれまでの遍歴を簡単に辿ってみたい。

私は1992年に中国文学科に入学した。高校時代、ぼんやりと小説家を志望していて、その時教わった非常勤講師の先生に色々と相談をしたが、偶然にも大東文化大学のOBであった。その方から「小説を書くなら、漢文を勉強しておいた方がよい」との助言も受け、入学後は漢文を学ぶ傍ら、日本文学作品等も読みつつ学生生活を送った。当時、板橋校舎の図書館内に書庫棟が併設されていた（現在は別棟）が、開架式で比較的自由に閲覧できた。時折、資料を探したり目的も無いまま潜ったりしていたものである。その時に巡り逢ったのが清初の文人余懷（1616—1696）の随筆『板橋雜記』という作品だった。この「板橋」とは南京市街に流れる秦淮河に掛かっていた「長板橋」の事で、当時はこの辺りに妓楼が建ち並んでいた。この作品は板橋周辺の花街と妓女、そして文人たちの様子を描いたものであり、日本文学にも大きな影響を与えている。この作品との出逢いは全く偶然の産物で、清末の『香艷叢書』という叢書を見つけ、何気なくページをめくっていて目に入ったのである。むろん、「板橋」という語に惹かれたのは言うまでも無い。恐らく大東文化大学に入学していなければ、見つけていたとしても特に注目しなかっただろう。ちなみに卒業論文のテーマは前述『香艷叢書』の成立・編纂状況であった。

このように、私の初めての研究テーマはかなり偶然で安直な選び方で決まったのであった。

その後大学院に進み、修士では中国の遊里文学作品における『板橋雜記』の影響や立ち位置等について論じたが、博士になると『板橋雜記』そのものから作者余懷の人物や彼が活躍した明末清初の時代へと興味に移り、彼の交遊関係を中心に研究を進め、「余懷研究」として纏めるに至った。修了後は、明末清初の江南文人交遊ネットワーク研究へと拡大し、ここ十年来は、清初の文人張潮（1650—1709?）に研究の対象が移り、とりわけ張潮が文人たちと応酬した書簡を手がかりに、その伝達状況や叢書の編纂、およびネットワークの解明等に取り組んでいる。実は張潮は余懷とも交遊があり、張潮編纂の叢書には、余懷の作品が複数掲載されており、学生時代から気になっていた人物であった。

このように、私のこれまでの研究は内容も何らかの関連があるし、また叢書の編纂状況を研究するという点では卒業論文と同じ方向性であり、その意味では一貫しているとも言えるし、ここ数十年あまり進歩がないとも言える。

2014年度より『藝文類聚』の研究班（第2班）に兼担研究員として参加しており、更に2019年度より第9班の班長としても活動しており、今年度中に張潮編纂の叢書である『虞初新志』の訳注（巻一～巻三）を刊行予定である。以上のような様々な奇縁や偶然により、現在研究所に参加させて頂いている。

（こづか よしひろ 文学部中国文学科准教授）

2021年度 東洋研究所共同研究課題

第1班	中華人民共和国 100 年史研究—日中関係の今後を見据えて
	期間 2019～2021年度（研究期間中）
	メンバー（17名） 團岡崎邦彦〔主任〕 團齊藤哲郎、鹿錫俊、高田茂臣 団鑑屋一、伊藤一彦、上野英詞、植松希久磨、江崎隆哉、小島麗逸、近藤邦康、篠永宣孝、柴田善雅、嶋亜弥子、由川稔、田中寛、福田和展 概要 研究計画は3年間の短期計画（2019～2021）と10年をかけた長期計画（2020～2030）から構成される。計画では、日中関係を含む「中国共産党100年史年表」（1921～2020）、および「中華人民共和国100年史年表」（1949～2048）の二つの百年史年表を研究、整理し、さらに公刊に向けて準備する。 まず、中華人民共和国建国以前の歴史と日中関係について様々な分野から整理し、戦後日中関係において引き継がれた課題を明らかにする。さらに、中華人民共和国建国後については、これを毛沢東の時代（1949～1946）と鄧小平の時代（1978～2012）、そして習近平の時代（2012～）に分け、それぞれの内政、外交、日中関係について整理していく。そこでは毛沢東の「社会主義の道」、鄧小平が提起した「新たな社会主義と改革開放」、さらに習近平のめざす「中国の特色ある社会主義の新時代」構想、その政策の連続性と問題点について検討する。特に、習近平の中国の「中華振興」、「一路一帯」にみる世界認識と覇権主義、さらに国内における民衆の自由、民主の要求と共産党政治の問題点を明らかにする。 なお従来からのテーマ、「20世紀、21世紀の中国の対外抵抗、対内改革と日本について」の研究を継続させ、日中間であらたな世界秩序を創造していくモデルを考えていく。
第2班	類書文化研究—『藝文類聚』を中心にして—
	期間 2020～2022年度（研究期間中）
	メンバー（10名） 團田中良明〔主任〕 団小塚由博、高橋睦美、宮瀧交二、藏中しのぶ 団芦川敏彦、小林敏男、中林史朗、成田守、浜口俊裕 概要 本邦に伝来する最古の現存類書の『藝文類聚』は、我が国の古典文学に多大の影響を与えていることは周知の事実である。それが今日に至るまで雑家の書として等閑視されてきた嫌いがある。それ故、未読解の本書を訓読して、原典との校勘、典拠の解明、索引の作成をすることは、単に国文学への影響のみならず、類書学上においても大いに貢献するものであると考える。その研究成果を逐年刊行して今日に及んでおり、斯学の評価を得ている。なお、近年の研究活動の実態に即し、2020年度以降は、研究課題を「日中文学の比較文学的研究」より「類書文化研究」に改めている。
第3班	アジア史のための欧文史料の研究
	期間 2020～2022年度（研究期間中）
	メンバー（4名） 団滝口明子〔主任〕、齋藤俊輔 団出田恵史、山田準 概要 本研究の目的は、アジアに関わるヨーロッパ人による旅行記や地理書、年代記などの研究を通じて、アジア史において欧文史料を再評価するとともに、アジア史の進展に貢献することにある。 近年まで、アジア史における欧文史料の位置づけは、ヨーロッパ中心史観の見直しが進む中で現地語史料に準ずるものとする傾向が強まった。しかし、最近では、アジアの現地語史料による研究が進んできたことで欧文史料の重要性が見直されている。実際のところ、欧文史料、とくに大航海時代以降について、年代記だけでなく、植民地文書、そして宣教師の書簡などが多く残り、アジア史研究にとって非常に重要であることはかわりない。また、ヨーロッパ中心史観としてアジア史に関連する欧語史料を排除することは研究の進展を妨げかねない。 本研究は、こうした現況をふまえ、アジア史に関連する欧文史料の研究を進める。具体的には、1）アジア史研究に有用と思われるヨーロッパ人による旅行記や地理書などに訳注をほどこし、出版することを目指すとともに、2）当該史料の周辺を複数の同時代史料で補い、研究を深める。 なお、本研究の観点は、アジア史のみならず、近年盛んになっている「グローバルヒストリー」のような世界史研究に貢献するものと考えている。グローバルヒストリーは、世界各地の比較や連動性を重視している。本研究で取り上げる史料群は、アジアやアフリカ、アメリカでの交渉を含むものであり、その研究は世界史研究の進展にも十分資すると考えられる。 【2021年度活動休止】
第4班	唐・李鳳の『天文要録』の研究（訳注作業を中心として）
	期間 2019～2021年度（研究期間中）
	メンバー（12名） 團小林春樹〔主任〕、田中良明 団小坂真二、小林龍彦、進藤英幸、高橋あやの、中村聡、中村士、濱久雄、細井浩志、山下克明、渡邊義浩 概要 前田尊經閣文庫のみに現存する貴重な逸存書である『天文要録』の巻五「月占」全巻の訓読・訳注作業の完成をめざす。
第5班	茶の湯と座の文芸
	期間 2020～2022年度（研究期間中）
	メンバー（14名） 団藏中しのぶ〔主任〕 団相田満、安保博史、王宝平、オレグ・プリミアニ、菅野友巳、藏田明子、笹生美貴子、高木ゆみ子、布村浩一、フレデリック・ジラル、松本公一、三田明弘、矢ヶ崎善太郎 概要 2004（H16）～2006（H18）年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）（2）「茶の湯と座の文芸の本質の研究—『茶譜』を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク」の成果、および2008（H20）～2019（R1）年度の東洋研究所研究班「茶の湯と座の文芸」の成果として刊行した『茶譜 巻一注釈』～『茶譜 巻十一（下）注釈』を発展的に継承すべく、江戸時代中期寛文年間成立とされる茶道百科事典『茶譜』全十八巻の注釈研究を継続しておこなう。 研究分担者は、科研費研究から継続して参加する藏中しのぶ（日本文学・上代中古文学）、相田満（人文情報学・中古中世文学）に加えて、安保博史（日本文学・近世文学）、矢ヶ崎善太郎（建築史・茶室建築）、三田明弘（日本文学・中世文学）、パリから高木ゆみ子（歴史学・茶道史）、フレデリック・ジラル（仏教思想史）、中国から王宝平（日本文学）、また、新たに兼任研究員として、松本公一（歴史学・日本文化史学）、オレグ・プリミアニ（日本文学・日本語文化学）、藏田明子（国際政治学）、菅野友巳（芸術学）、笹生美貴子（日本文学・中古文学）、布村浩一（日本文学・中古文学）を迎え、茶道文献を対象とした学際研究をめざす。
第6班	西アジア地域における社会と文化の伝統・交流・変容 —イラン・アラブ・トルコ文化圏の越境—
	期間 2021～2023年度（継続）
	メンバー（14名） 団吉村武典〔主任〕、團栗山保之 団アブドリ・ケイワン、石井啓一郎、藏田明子、齋藤正道、鈴木珠里、ソレマニエ 貴実也、中村菜穂、南里浩子、林裕、原隆一、深見和子、吉田雄介

第6班	<p>概要 西アジア地域は、イラン文化圏、アラブ文化圏、中央アジア・トルコ文化圏にまたがる広大な地域にまたがり、相互に交流しながら独自の社会、文化を構築、発展し続けてきた。例えば、アフガニスタン、タジキスタン、クルディスタンなどを含むイラン文化圏では、ペルシア語系の言語や太陽暦の春分を新年（ノウルーズ）として祝う生活文化があげられる。これらは周辺のアラブ、中央アジア、トルコ、インドなどの文化圏との歴史的な交流から生まれたものだが、同時にそれら周辺の文化圏が持つイスラームや遊牧民がもたらした文化や生活習慣もイラン文化圏に影響を与つづけて来た。</p> <p>本研究では、イラン文化圏を基礎とした社会文化の変容に関する研究を発展的に継承し、西アジア地域全体へと視野を拡大する。特に農業や灌漑技術の開発・拡散・需要、生活様式や用具の生産、流通、消費といったモノと、それらを利用する人々の技術（知恵）、思想、文学、歴史など知的生産物の双方を通して、西アジア地域の環境、社会、文化が持つ地脈を考察する。</p> <p>第3期まで当研究班が行ってきた、先人の研究成果やその手法の総括を継続し、研究参加者による新たな研究視点や手法を確立していき、研究成果の公表を積極的に行っていく。</p>
第7班	<p>岡倉天心（覚三）にとつての「伝統と近代」</p> <p>期間 2019～2021年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（8名） 田辺 清〔主任〕、宮瀧 交二 田池田 久代、岡倉 登志、岡本 佳子、佐藤 志乃、篠永 宣孝、依田 徹</p> <p>概要 岡倉天心（1863-1913）は、幼時より漢籍そしてヘボン塾で英語を学び、東京開成学校に入学、1877年東京大学で政治学、理財学ならびにフェノロサについて哲学を学び、卒業後、フェノロサの日本美術研究に協力し、古美術の研究と新しい日本画の樹立を志した。86年文部省の美術取調委員としてフェノロサとアメリカ経由でヨーロッパを巡り翌年帰国、東京美術学校の創設、90年校長に就任した。</p> <p>この間美術専門誌『国華』を創刊、日本絵画協会主宰、帝室技芸員選考委員、古社寺保存会委員に任ぜられ、98年校長を辞職、橋本雅邦、横山大観、菱田春草、下村観山らと日本美術院を創設、新しい日本画を志して美術運動をおこした。1904年（明治37）大観、春草を伴い渡米し、ボストン美術館の仕事にあたり、05年同館の東洋部長となり、06年ニューヨークで『茶の本』を出版、その年の末に日本美術院を茨城県五浦へ移し、大観、春草、観山らと住み、07年文部省美術審査委員会委員となり、08年国画玉成会を結成、10年東京帝国大学で『泰東巧芸史』を講義した。翌年欧米旅行を行い、ハーバード大学からマスター・オブ・アーツの学位を受けた。続いて12年インド、ヨーロッパを経て渡米し、13年（大正2）病を得て帰国、療養に努めたが、同年9月2日新潟県赤倉山荘で没した。英文著書『東洋の理想』（1903）、『日本の覚醒（かくせい）』（1904）、『茶の本』（1906）などは外国人はもちろん、翻訳されて広く日本人にも影響を与えた。</p> <p>岡倉天心研究はまだまだ研究されなければならない点があるが、本研究部会においては、岡倉天心の「伝統と近代」に着目し幅広い研究を進めて行きたい。</p>
第8班	<p>南アジア社会における包摂と排除</p> <p>期間 2021～2023年度（継続）</p> <p>メンバー（12名） 須田 敏彦〔主任〕、J・アバイ、篠田 隆、井上 貴子、鈴木 真弥 石坂 晋哉、石田 英明、片岡 弘次、舟橋 健太、増木 優衣、ムハマド・ズベル</p> <p>概要 多言語多民族国家により構成されている南アジアでは、近年の政治経済社会変動のなかで、社会を構成する多様な集団間の統合とアイデンティティをめぐる関係も変化し、その結果、基本的な人権や国民が平等に享受すべき諸種の権利から「排除」(Exclusion)される個人や集団が生じている。他方、この排除の現実を踏まえたうえで、多様な集団間の統合とアイデンティティの強化、すなわち「包摂」(Inclusion)を求める政治経済社会運動も展開している。</p> <p>本研究では、多様な民族、宗教、カースト、階級構成をもつ南アジア社会で周辺に置付けられてきた集団を対象として、彼らと社会変動との関わりを「包摂」と「排除」の観点から分析する。彼らはどのような文学、政治、社会運動をおとして、自らの行動規範や価値観を再構成し新たなアイデンティティを模索し「包摂」を求めてきたのか、彼らに対してどのような「排除」の仕組みや圧力が働いてきたのかを、社会学や経済学を専門とする委員と歴史学、文学を専門とする委員の共同作業をおとして、総合的に研究する。</p>
第9班	<p>明清の文言小説と文人たち—張潮『虞初新志』訳注—</p> <p>期間 2019～2021年度（研究期間中）</p> <p>メンバー（5名） 小塚 由博〔主任〕 田中 良明 荒井 礼、今井 秀和、小川 陽一</p> <p>概要 清初の文人張潮が編纂した文言小説集『虞初新志』を訓読し、現代日本語に翻訳し、注釈等を施す。『虞初新志』には全20巻、150作品が収められている。</p> <p>明から清にかけて、「虞初」の名を冠した小説集が複数編纂されたが、とりわけ本作品は過去（六朝・唐等）の作品を集めたのではなく、同時代の人物の作品を集めたことが大きな特徴である。彼らは編者張潮の友人・知人が多く、彼の交遊関係が大きく影響している。</p> <p>また、本作品は中国だけではなく、日本にも江戸時代中期以降に伝来し、和刻本が刊行されており、日本文学との関係も見られる。3年間の成果としては分量の都合上、そのうち3巻（自序・凡例等を含む）を対象とする。</p>
第10班	<p>インド洋が取り結ぶ東西交流の諸相に関する研究</p> <p>期間 2021～2023年度（新規）</p> <p>メンバー（4名） 栗山 保之〔主任〕 吉村 武典 新井 和広、太田 啓子</p> <p>概要 インド洋は、東アフリカ、西アジア、南アジア、南アジア、そして東南アジアといった諸地域に縁どられた大洋である。古来、このインド洋を介して、これらの諸地域に居住する人びとは、ひんぱんに交流していた。このような、インド洋を往来していた人びと、あるいは人びとが携え流通していたさまざまなモノ、または人やモノが動くことによって伝わる情報・技術・文化などの諸相について考察することが、本研究の目的とするところである。</p> <p>本研究でインド洋を中心的に取り上げる理由は、近年、中国がインド洋への進出を活発化させ、米国をはじめとする欧米諸国やアジア・アフリカ諸国はその対応に迫られており、いわばインド洋を舞台とした世界情勢の変容が観察されるようになっているからである。この意味において、インド洋を中心とした東西交流の検証は、歴史的な事柄を考察すると同時に、すぐれて現代的な議論でもあると言えるのである。</p> <p>本研究で考察する東西交流とは、インド洋を舞台として、同海洋の東西に位置するヨーロッパやアフリカ、そしてアジアの間で展開していた、人・モノ・情報の往来・流通・伝播と、それらに関連・由来する諸事象を意味している。こうした交流の問題は、非常に多種多様な歴史的事象を包含していると考えられる。</p> <p>具体的には、イスラームが誕生した西暦7世紀前後からポルトガルをはじめとする西欧列強がインド洋でその勢力を拡大する18世紀ごろまでにおいて、ムスリム、キリスト教徒、ユダヤ教徒、あるいは仏教徒などの商人、職人、学生、旅人、軍人、船乗りといったじつにさまざまな職能を有する人びとが、商業、貿易、軍事、就職、修学、旅行、航海といったいろいろな目的の完遂をもとめて、自らが誕生し生活している社会、地域、あるいは国家から、異なる社会、地域、国家などへと、インド洋をわたって移動、移住、定着、帰還し、そうした営為が一時的、あるいは継続的に、そして相互的、または重層的に展開していたことを考察したいと考えている。</p>

2020年度 東洋研究所共同研究班活動報告

第1班	中華人民共和国 100 年史研究 ― 日中関係の今後を見据えて―				
	研究班の活動				
	No.	開催日時	開催場所	参加人数	秋の公開講座 (テーマ・講師)
	1	11月12日	大東文化会館 K302	15名	「中国の朝鮮半島への影響力」 伊藤一彦
	2	11月19日	大東文化会館 K302	15名	「現代中国の労働問題を語る」 嶋 亜弥子
	3	都内コロナ感染拡大のため中止			「中国 100 年政治外交史」 岡崎邦彦
	No.	研究成果物 (論文)			
	1	由川 稔 タイトル ロシアの政治経済思想における「ヨーロッパ」と「アジア」の止揚意識～「ユーラシア主義」と「自由」をめぐる諸相 (上)～ 出版社等 『東洋研究』第216号 発行年月 2020年7月25日			
	2	田中 寛 タイトル 「陸軍報道班員としての国分一太郎の従軍体験―「兵隊」に描かれた中国民衆像―」 出版社等 『大東文化大学教職課程センター紀要』第5号 発行年月 2020年12月			
	3	田中 寛 タイトル 「戦時期における日本語の進出と文化建設―南方諸地域を中心に―」 出版社等 『語学教育ジャーナル』第36号 発行年月 2021年2月			
第2班	類書文化研究 ― 『藝文類聚』を中心にして―				
	研究班の活動				
	No.	開催日時	開催場所	参加人数	研究会 (テーマ・内容・発表者)
	1	11月21日	オンライン	6名	『藝文類聚』巻52 訓読
	2	12月19日	オンライン	5名	『藝文類聚』巻52 訓読
	3	1月23日	オンライン	7名	『藝文類聚』巻52 訓読
	4	2月27日	オンライン	6名	『藝文類聚』巻52 訓読
	5	3月20日	オンライン	6名	『藝文類聚』巻52 訓読
	No.	研究成果物 (刊行物等)			
	1	『藝文類聚 (巻四十九) 訓讀付索引』(2021年2月25日発行)			
第3班	アジア史のための欧文史料の研究				
	研究班の活動				
	No.	開催日時	開催場所	参加人数	研究会 (テーマ・内容・発表者)
	1	7月17日	オンライン開催 (11:00～13:00)	4名	1) 研究会で翻訳や研究を進める対象の見直し 2) 山田準先生のこれまでの研究をまとめた書籍 (対談集) の編集計画 3) 読書会の提案: 以下の研究書をはじめ、数点の提案があり、継続して検討することになった。 ・ジョン・アーリ (吉原直樹・伊藤嘉高訳、2015年『モビリティーズ移動の社会学』(作品社) ・アンソニー・エリオット/ジョン・アーリ (遠藤英樹監訳)、2016年『モバイル・ライプス移動が社会を変える』(ミネルバ書房) ・Kuper, A. 2005 Anthropology and anthropologists. London: Routledge (出席者: 山田準、齋藤俊輔、出田圭史、滝口明子) = 今後の計画を中心に以上のようなテーマについて話し合った。
	所属研究員の活動				
	No.	学会等での発表			
	1	齋藤俊輔 (口頭発表) タイトル 「ブラジル人コミュニティと地域社会―群馬県大泉町におけるブラジル人学校の成立とこれまでの歩みから」 (政治経済学・経済史学会春季総合研究会「日本における「外国人問題」の歴史的位相―共棲の観点から「公共圏」への問い)) 学会等 2020年度政治経済学・経済史学会春季学術大会 発表年月 2020年6月13日 (土) オンライン開催			
	唐・李鳳撰の『天文要録』の研究 (訳注作業を中心として)				
	研究班の活動=新型コロナウイルス感染症蔓延のため、集合しての研究会は実施せず。				
	第4班	所属研究員の活動			
No.		刊行物等準備			
1		小林春樹 『天文要録』月占第五を対象とした、『天文要録の考察』第4冊の刊行準備のため ・本文の翻字原稿作成 ・訓読文の原稿の作成 ・語釈・参考の原稿の作成の完成作業を行った			

茶の湯と座の文芸				
研究班の活動				
No.	開催日時	開催場所	参加人数	研究会（テーマ・内容・発表者）
1	5月12日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二「茶譜目録」(藏中)
2	5月19日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二1「茶救後茶杓持様事」(笹生)
3	5月26日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二1「茶救後茶杓持様事」(笹生・佐藤)
4	6月2日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二2「小壺渠茶救様事」(藏田)
5	6月9日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二3「茶碎後茶杓打払事 付茶碗ニ置事」(ジラル・高木・加藤)
6	6月16日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二3「茶碎後茶杓打払事 付茶碗ニ置事」(菅野)
7	6月23日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二4「茶入取寄様持形事」(安保・頼妍菲)
8	6月30日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二5「同蓋取様置所事 付棗類」(佐藤・笹生)
9	7月14日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二6「中継井茶入蓋ノ上ニ茶杓置事 付茶入景置様」(相田)
10	7月21日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二7「濃茶後直ニ薄茶点事」(松本・藏田)
11	7月28日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二8「茶入取替事 付客人茶入所望」(菅野)
12	8月4日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二9「棗・中継・濃茶入之事付木地道具」(笹生)
13	9月22日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二10「濃茶服加減之事 付宇治茶定目」(相田・頼妍菲)
14	9月29日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二11「点茶意持之事」(松本)
15	10月6日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二12「茶之振茶筥之事」(藏中・北井)
16	10月13日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二13「点茶茶碗出様置所事 付幅紗物」(高木)
17	10月20日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二14「宗和茶発置・茶碗之事」(藏田)
18	10月27日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二15「客人茶飲中釜之蓋占事 付柄杓・蓋置」(布村・笹生)
19	11月10日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二16「客人茶飲作法之事 付名園風味」(プリミアニー)
20	11月17日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二17「客人茶碗見様之事 付茶碗返事」(高木・笹生)
21	11月24日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二18「濃茶之跡揃湯飲事 付客人湯所望」(藏田)
22	12月1日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二19「濃茶之後茶碗揃井水指蓋取事」(安保・チャンボン)
23	12月8日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二20「客人茶可仕舞挨拶之事」(三田)
24	12月15日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二 原稿確認
25	12月22日	メール研究会	33(19)名	『茶譜』巻十二 原稿確認
26	1月7日	zoom会議	33(19)名	『茶譜』巻十二 初校確認(藏中、安保)
27	2月1日	zoom会議	33(19)名	『茶譜』巻十二 再校確認(藏中、安保)
28	2月17日	zoom会議	33(19)名	『茶譜』巻十二 三校確認(藏中、安保)
29	2月26日	zoom会議	33(19)名	『茶譜』巻十二 四校確認(藏中、安保)
30	3月2日	zoom会議	33(19)名	『茶譜』巻十二 最終校確認(藏中、安保)
参加人数()は研究員以外で内数				
No.	研究成果物(刊行物等)			
1	『茶譜』巻十二 注釈(2021年3月5日発行)			
所属研究員の活動				
No.	刊行物等			
1	安保博史、藏中しのぶ、楊世瑾 書名『東アジア比較文化研究』19号 概要 安保博史責任編集、安保博史、藏中しのぶ、楊世瑾が執筆。「特集・東アジアのネットワークと日本の近世」 出版社等 東アジア比較文化国際会議日本支部 発行年月 2020年7月			
西アジア地域における社会と文化の伝統・交流・変容 ―イラン・アラブ・トルコ文化圏の越境―				
研究班の活動				
No.	開催日時	開催場所	参加人数	研究会（テーマ・内容・発表者）
1	2月21日	オンライン開催 (zoom) (13:00～16:15)	19名	第1回 大東 西アジア研究会 「ポルトガル来航期のインド洋におけるアラブの船乗りたちの風認識」 栗山 保之(大東文化大学東洋研究所・教授)

第6班	所属研究員の活動				
	No.	学会等での発表			
	1	Ruichi HARA and Hiroko NANRI, "Exploring 50 years of farmers livelihood at Kheirabad village, Marvdasht in southern Iran: Human Geography Materials in the Morio Ono Collection", The Anthropology and Geography: Dialogues Past, Present and Future conference, Royal Anthropological Society, The British Museum, Royal Geographical Society and SOAS (University of London), 18th September, 2020 (オンライン開催)			
	2	吉村武典 ・2020年12月5日、地中海学会研究会(オンライン開催) 「イスラーム都市と水施設: マムルーク・オスマン期カイロのサビール・クッターブについて」			
	No.	刊行物等			
	1	石井啓一郎 「ナズム・ヒクメット 生涯をかけて新生の祖国に良心を問いつけた「侠」 鈴木董編『侠の歴史 西洋編 上+中東編』清水書院、2020年			
	2	深見和子 「近代イランの植物学的研究—東洋文庫所蔵 A. ガフレマーン著植物写真集『イラン植物誌 (Flore de l'Iran)』について—」『東洋文庫書報』51号(2020年)、79-99頁			
	3	ソレマニエ貴実也 「カーシャーン市の歴史的住宅と街区に見られる伝統的空間構成に関する考察」『東洋研究』第217号(2020年11月)、17-48頁			
	4	吉田雄介 「イランにおける多様な敷物消費——日本からイラン・中東に輸出された岡山県産ポリプロピレン花むしろを事例に——」『東洋研究』第217号(2020年11月)、49-67頁			
	5	吉村武典 「水施設・土木遺産」鈴木董ほか編『中東・オリエント文化事典』丸善出版、2020年、584-585頁			
6	Yoshimura, Takenori, "The Role of Middle and Lower Rank Military Officers in Fourteenth-Century Mamluk Egypt: Establishment and Development of the Regional Administration Offices of wālī and kāshif" Stephan Conermann, Toru Miura (eds.), Studies on the History and Culture of the Mamluk Sultanate (1250-1517) (Mamluk Studies No. 25), V&R Unipress/Bonn University Press, 2021, pp. 291-312.				
第7班	岡倉天心(覚三) についての「伝統と近代」				
	研究班の活動				
	No.	開催日時	開催場所	参加人数	研究会(テーマ・内容・発表者)
	1	6月21日	zoomによる オンライン開催 (運営本部会場: キャンパスプラザ京都)	40名程度	オンラインワークショップ「科研・三菱財団助成金共催 グローバル禅ワークショップ」 「シカゴ国宗教会議以後の展開—アジアにおける宗教会議の試み—」岡本佳子
	2	9月30日	大東文化会館	8名	地域連携センターオープン・カレッジ「天心の旅路(9)」岡倉登志
	No.	刊行物等			
	1	池田久代(共著) "Tokaido Road: A Journey Back to Its Origin and a Comparison with Utagawa's Prints" by Hisayo Ikeda(Coauthor) Communities and Sacred Space-Canterbury and Ise in Historical and Cultural Context Published by Kogakkan University, 2020, May (日英共同研究) 『堀至徳関係文書』皇學館大学出版部 堀至徳資料研究会編 池田久代編著 2021年3月10日発行			
	2	岡倉登志 「岡倉天心をめぐる人々—フェノロサ門下の友人たち(1)—牧野伸顕」、『東洋研究』第218号(2020年12月25日)、pp.45-74. 大東文化大学東洋研究所			
	3	岡本佳子 「岡倉覚三が語る儒仏道—越境する明治日本の知的アマチュアリズムと東アジアの「宗教」—」久保田浩・鶴岡賀男・林淳・深澤英隆・細田あや子・渡辺和子編『越境する宗教史』上巻(宗教史学論叢25)、リトン、2020年11月16日、pp.9-40			
	4	田辺 清 「再考・レオナルド・ダ・ヴィンチと東方」、『東洋研究』第216号(2020年7月25日)、pp.69-80. 大東文化大学東洋研究所			
第8班	南アジアにおける包摂と排除				
	研究班の活動				
	No.	開催日時	開催場所	参加人数	研究会(テーマ・内容・発表者)
	1	7月14日	オンライン(zoom使用) 15時~17時	7名	「タミルナードゥ州におけるパライヤルの宗教・政治・文化活動—太鼓パライは誰のものか—」井上貴子 「インドのダリト運動にみる権利意識と生存戦略」鈴木真弥 「ヒンディー文学とムスリム作家「ラーヒー」マスーム・ラザーについて」石田英明
	2	11月24日	オンライン(zoom使用) 15時~17時	9名	「ハラール観光とハラールビジネスにおける新型コロナウイルス感染拡大の影響」ムハマンド・ズベル Effects of the Spread of New Coronavirus Infection on Halal Tourism and Halal Business 「インド・グジャラート州における牧畜カースト若者の公務職挑戦」篠田隆
	所属研究員の活動				
No.	刊行物等				
1	篠田隆 書名 「インドにおける牛経済と牧畜カースト」 出版社 日本評論社 発行年月 2021年2月				

明清の文言小説と文人たち 一 張潮『虞初新志』訳注一				
研究班の活動				
No.	開催日時	開催場所	参加人数	研究会（テーマ・内容・発表者）
4月、5月の研究会は、コロナウィルス感染拡大防止のため中止				
1	6月24日	zoomによる オンライン研究会	5名	『虞初新志』巻二「武風子伝」の訓読・翻訳の検討（田中）
2	7月22日	zoomによる オンライン研究会	5名	『虞初新志』巻二「記老神仙事」の訓読・翻訳の検討（小塚）
3	8月26日	zoomによる オンライン研究会	4名	『虞初新志』巻二「瑤宮花史小伝」の訓読・翻訳の検討（荒井）
4	9月23日	zoomによる オンライン研究会	4名	『虞初新志』巻二「瑤宮花史小伝」の訓読・翻訳の検討②（荒井）
5	10月28日	zoomによる オンライン研究会	5名	『虞初新志』巻二「瑤宮花史小伝」／「九牛壩観抵戯記」の訓読・翻訳の検討（荒井、田中）
6	11月25日	zoomによる オンライン研究会	5名	『虞初新志』巻三「馬伶伝」の訓読・翻訳の検討（小塚）
7	12月23日	zoomによる オンライン研究会	4名	『虞初新志』巻三「顧玉川伝」の訓読・翻訳の検討（荒井）
8	1月27日	zoomによる オンライン研究会	4名	『虞初新志』巻三「冒姫董小宛伝」の訓読・翻訳の検討①（田中）
9	2月24日	zoomによる オンライン研究会	5名	『虞初新志』巻三「冒姫董小宛伝」の訓読・翻訳の検討②（田中）
10	3月27日	zoomによる オンライン研究会	4名	『虞初新志』巻三「賣酒者伝」の訓読・翻訳の検討（小塚）
所属研究員の活動				
No.	研究成果物（論文）			
1	小塚由博 タイトル 「『虞初新志』について」 出版社等 『東洋研究』第219号（『虞初新志』特集号）3～46頁 発行年月 2021年1月			
2	荒井 礼 タイトル 「『虞初新志』に見る張潮の亜流好尚」 出版社等 『東洋研究』第219号（『虞初新志』特集号）47～70頁 発行年月 2021年1月			
3	田中良明 タイトル 「『虞初新志』書鄭仰田事より見る明末清初の析字」 出版社等 『東洋研究』第219号（『虞初新志』特集号）71～100頁 発行年月 2021年1月			
4	今井秀和 タイトル 「『虞初新志』の日本受容一昌平覺から鷗外、漱石、露伴まで」 出版社等 『東洋研究』第219号（『虞初新志』特集号）101～128頁 発行年月 2021年1月			

東洋研究所国際交流講演会開催一覧

	開催日	曜日	時間	テーマ	講師	講師身分
1	1983.06.22	水		ベトナム社会主義共和国における歴史研究について	ヴァン・タオ	ベトナム社会主義共和国社会科学委員会史学院院长
2	1984.07.05	木		古代中国における親族構造と国家構造	レオン・ヴァンデルメルシュ	日仏会館フランス学長、フランス国立高等研究院教授
3	1985.10.30	水	14:00～	現代国際関係研究所の機構と研究の現状	奚志豪	現代国際関係研究所助理研究員（講師）
4	1985.10.30	水	14:00～	中日関係の現状と日本に対する見方・期待	劉江永	現代国際関係研究所助理研究員（講師）
5	1986.04.25	金	17:00～	インド文明と民主主義	ラジニ・コタリ	The Centre for the Study of Developing Societies 教授 インド政治学者
6	1986.07.09	水		中国の対朝鮮半島政策	陶炳蔚	中国国際問題研究所アジア太平洋室主任
7	1987.07.06	月	14:00～	今日のバキスタン	アスラーム・シャー	カラチ大学社会問題学部長、準教授
8	1987.11.25	水	15:00～	内蒙古の少数民族の生活と文化	巴達榮嘎（バタルンガ）	中華人民共和国内蒙古自治区社会科学院顧問
9	1989.07.10	月	15:00～	インドから見たアジア太平洋時代	V. D. チョブラ	アジア太平洋国際研究所〔インド・ニューデリー〕副 所長、教授
10	1989.10.12	木		近代日本における華僑社会の形成	陳昌福	上海師範大学歴史系副教授
11	1990.10.23	火	17:30～	アジア・太平洋地域の新しい枠組みについて	陳啓懋	中国上海国際問題研究所所長、上海国際学会会長
12	1992.07.07	火		近代経学と政治	湯志鈞	上海社会科学院歴史研究所前所長
13	1992.12.08	火		災害管理—1990年イラン地震後における社会経済問題	メフディ・ターレブ	
14	1993.10.14	木	13:00～	中国人の「忍」—内容・方式・限度	馬宏偉	内蒙古師範大学〔中国〕、東洋研究所客員研究員
15	1994.02.18	金	15:00～	台湾の現状と将来の展望	洪樵榕	二松学舎大学教授
16	1994.10.31	月		中国における人口の変動からみた少数民族問題	胡起望	中央民族大学〔中国〕民族研究所教授
17	1995.02.04	土	16:00～	韓国仏教の現状	金知見	韓国精神文化研究院 文学博士
18	1995.10.26	木	15:00～	中国の簡体字について	張明輝	二松学舎大学教授
19	1996.02.24	土		ヒンドゥー彫刻における母なる女神	シリル・バリヤト	上智大学助教授
20	1996.06.15	土	15:00～	タイ仏教の歴史と現状	ターナヴット・ビック	ダンマカーヤ寺比丘
21	1997.02.22	土	15:00～	アメリカと日本の百年	ウィリアム・スティール	国際基督教大学教授
22	1997.12.04	木	14:00～	日本からオランダに渡った1188枚の写真コレクション について	ヘルマン・J・ムースハルト	オランダ国立ライデン大学
23	1998.02.21	土	15:00～	21世紀における台日文化交流について	何瑞藤	国立台湾大学教授
24	1998.12.10	木	15:00～	韓国宗教界の現状と問題点	金漢益（キムハンイク）	東方学院講師・東京大学東洋文化研究所協力研究員
25	1999.02.20	土	15:00～	中国に関して何を問うべきか	クルト・W・ラドケ	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授
26	1999.06.26	土	15:00～	19世紀初頭の日本人の生活と文化	ムイヌッディーン・アキール	東京外国語大学客員教授
27	2000.02.19	土	15:00～	科挙制度と現代中国教育の問題点	叢小榕	大東文化大学国際関係学部講師
28	2000.12.07	木	16:00～	16世紀末期～20世紀初頭日中両国における西洋文化 導入の比較—科学技術文献を中心とする—	李素楨	東海大学外国語教育センター中国語講師 成城大学日中文化比較非常勤講師
29	2001.02.17	土	15:00～	ドイツ人の目で見えた日本の社会運動とその政治的役割	ヴィリアム・フォッセ	国際基督教大学教養学部社会科学科助教授
30	2001.12.06	木	14:30～	最近のオランダの人口動態について	アントン・フェルコフ	日蘭学会講師
31	2002.02.23	土	15:00～	私の日本美術史研究	リチャード・ウィルソン	国際基督教大学教養学部人文社会科学科教授
32	2002.06.22	土	15:00～	敦煌漢文仏教文献の価値について	李徳龍	中央民族大学〔中国〕教授 図書館長
33	2003.02.22	土	15:00～	私の日本研究—戦後民主主義の源流	M. ウィリアム・スティール	国際基督教大学教養学部社会科学科教授
34	2003.06.21	土	15:00～	明治前期における中国人が作成した日本地図 —『日本環海図要図誌』を中心に—	王宝平	浙江大学日本文化研究所教授、現二松学舎大学大学院 特任教授
35	2004.02.21	土	15:00～	紅に映る涙—王朝文学の詩的言語—	クリステワ・ツベタナ イリイフ	国際基督教大学教養学部教授
36	2004.06.19	土	15:00～	伊勢物語の視覚的享受史	ジョシュア・S・モストウ	ブリティッシュ・コロンビア大学〔カナダ〕アジア研 究科教授
37	2005.02.19	土	15:00～	中国における対日世論と感情の動向	石 平	(有) P P C 研究所 取締役
38	2005.06.18	土	15:00～	清代の秀女選抜制度について	趙令志	中央民族大学〔北京〕歴史系副教授 歴史学博士
39	2006.02.18	土	15:00～	日本近代小説のジャンルとしての私小説	トゥンマン・典子	スウェーデン・ヨーテボリ大学アジア・アフリカ語学 科日本語科教授
40	2006.06.17	土	15:00～	嵐揚げについて	マズハル・イクバル・ダーニシ	大東文化大学国際関係学部国際文化学科非常勤講師
41	2007.02.17	土	15:00～	通訳教育から考えた日中両国間の文化的違いについて	劉麗華	吉林大学〔中国〕外国語学院教授
42	2008.02.16	土	15:00～	オランダ商館長日記に見る日蘭関係	イサベル・ファン・ダーレン	財団法人日蘭学会 渉外・学芸担当
43	2009.02.21	土	15:00～	東アジアの将来像：共同体か異異体か	ウェッブ・ジェイスン	東京大学東洋文化研究所准教授
44	2010.02.20	土	15:00～	通訳者としてのプロ意識の生む通訳者の存在価値とは —中・日通訳トレーナーの視点から—	張宇澄	大連外国語学院日本語学院〔中国〕専任講師
45	2011.02.19	土	15:00～	東西の古典における「見る」ことの現性と恋愛 —神話的原型より文学的トポスへ—	ルカ・カッポンチェッリ	カタニア大学〔イタリア〕外国語外国文学学部講師
46	2012.02.18	土	15:00～	韓国の先祖供養	釋 悟震	東方学院講師 東方研究会研究員
47	2013.02.16	土	15:00～	与謝野晶子と私	ジャンーン・バイチマン	本学英米文学科教授
48	2014.02.15	土	15:00～	東京裁判：歴史の犯罪化	エリオット・ミルトン	駐日アイルランド大使館二等書記官
49	2015.02.28	土	15:00～	カール・ハウスホーファーの地政学理論と日本の「大 東亜共栄圏」構想	クリスティアン・W. シュバング	本学外国語学部准教授
50	2016.02.20	土	10:30～	激動の中東とイランの変革 ：イランは「フツウ」の国になれるか	アブドリ・ケイワン	神奈川大学 アジア研究センター研究員
51	2017.02.18	土	10:00～	朝鮮朱子学の特質～心に対する研究～	金 光来	東京大学大学院 人文社会系研究科助教
52	2018.02.17	土	10:00～	江戸初期の東照宮三十六歌仙扁額 —群馬県世良田東照宮本の伝来と系統—	オレグ・プリミアーニ	大東文化大学 外国語学部日本語科非常勤講師
53	2019.02.23	土	10:00～	ハラールと日本におけるハラール事情	ムハマド・ズベル	大東文化大学 国際関係学部国際文化非常勤講師
54	2020.02.22	土	10:00～	宗教儀礼に見る仙薬としての茶 —「称名寺聖教」を中心に—	張 名揚	実践女子大学 文芸資料研究所 客員研究員
55				新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点より、開催中止。		

2021年度 研究所 名簿

■名簿

管理委員会委員 (8名)

- 1 岡崎 邦彦
- 2 栗山 保之
- 3 小林 春樹
- 4 田中 良明
- 5 小塚 由博
- 6 宮瀧 交二
- 7 滝口 明子
- 8 田辺 清

専任研究員 (4名)

- 1 岡崎 邦彦 (所長)
- 2 栗山 保之
- 3 小林 春樹
- 4 田中 良明

事務室 (2名)

- 1 金山 弘通
- 2 宮本 恵

兼任研究員 (17名)

- 1 小塚 由博
- 2 高橋 睦美
- 3 宮瀧 交二
- 4 J アバイ
- 5 齋藤 俊輔
- 6 藏中 しのぶ
- 7 齊藤 哲郎
- 8 篠田 隆
- 9 須田 敏彦
- 10 滝口 明子
- 11 小尾 淳
- 12 井上 貴子
- 13 田辺 清
- 14 鹿 錫俊
- 15 鈴木 真弥
- 16 吉村 武典
- 17 高田 茂臣

兼任研究員 (70名)

- 1 相田 満
- 2 芦川 敏彦
- 3 アブドリ・ケイワン
- 4 鐙屋 一
- 5 安保 博史
- 6 新井 和広
- 7 荒井 礼
- 8 池田 久代
- 9 石井 啓一郎
- 10 石坂 晋哉
- 11 石田 英明
- 12 出田 恵史
- 13 伊藤 一彦
- 14 今井 秀和
- 15 上野 英詞
- 16 植松 希久磨
- 17 江崎 隆哉
- 18 太田 啓子
- 19 王 宝平
- 20 岡倉 登志
- 21 岡本 佳子
- 22 小川 陽一
- 23 オレグ・プリミアーニ
- 24 片岡 弘次
- 25 菅野 友巳
- 26 藏田 明子
- 27 小坂 眞二
- 28 小島 麗逸
- 29 小林 龍彦
- 30 小林 敏男
- 31 近藤 邦康
- 32 斎藤 正道
- 33 笹生 美貴子
- 34 佐藤 志乃
- 35 篠永 宣孝
- 36 柴田 善雅
- 37 嶋 亜弥子
- 38 進藤 英幸
- 39 鈴木 珠里
- 40 ソレマニエ 貴実也
- 41 高木 ゆみ子
- 42 高橋 あやの
- 43 田中 寛
- 44 中林 史朗
- 45 中村 聡
- 46 中村 士
- 47 中村 菜穂
- 48 成田 守
- 49 南里 浩子
- 50 布村 浩一
- 51 濱 久雄
- 52 浜口 俊裕
- 53 林 裕
- 54 原 隆一
- 55 深見 和子
- 56 福田 和展
- 57 舟橋 健太
- 58 フレデリック・ジラール
- 59 細井 浩志
- 60 増木 優衣
- 61 松本 公一
- 62 三田 明弘
- 63 ムハマド・ズベル
- 64 矢ヶ崎 善太郎
- 65 山下 克明
- 66 山田 準
- 67 由川 稔
- 68 吉田 雄介
- 69 依田 徹
- 70 渡邊 義浩



『藝文類聚』(巻49) 訓讀付索引

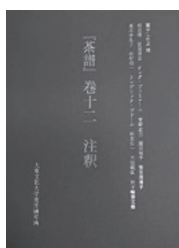
大東文化大学東洋研究所「藝文類聚」研究班(代表 田中 良明)

令和3年2月25日発行／B5判 53,22頁／ISBN 978-4-904626-41-2／頒価 3,000円(税別)

『藝文類聚』は中国の類書の中でも早い成立に属する類書で、日本文学への影響は計り知れないものがある。その『藝文類聚』を巻ごとに訓読文を施し、四部叢刊に採録されている作品については校異を付し、最後に利用者の便を考えて重要語彙索引を掲載したものである。

歴史研究者からの要望に伴い、巻45以降職官部の読解に着手している。

本巻には『藝文類聚』巻49職官部5(太常 衛尉 太僕 廷尉 鴻臚 司農 将作 光禄大夫 太子詹事 太子中庶子 太子舍人)の訓読文・校異・注(典拠)・索引を収めている。《既刊》巻1～16、巻45～48、巻80～89



『茶譜』巻12 注釈

藏中しのぶ、相田 満、安保 博史、オレグ・プリミアニ、菅野 友巳、藏田 明子、
笹生 美貴子、高木 ゆみ子、布村 浩一、フレデリック・ジラル、松本 公一、三田 明弘、
矢ヶ崎 善太郎 共著／

2021年3月5日発行／B5判 245頁／ISBN 978-4-904626-42-9／頒価 9,000円(税別)

『茶譜』全18巻は、茶道流派の生成がきざし始めていた寛文年間(1661～1673)頃の成立とされ、茶道全般におよぶ総合的な類聚編纂書である。各項目について、千利休流・小堀遠州流・古田織部流・金森宗和流等、流派のちがいを対照的に提示しつつ、茶の湯や茶室にかかわるさまざまな記事を類聚編纂した茶道百科事典ともいべき性格を備えている。

本書は、『茶譜』最善本とみなしうる国会図書館本を底本とし、伝存する四種の写本(国会図書館本・静嘉堂文庫本・内閣文庫本・岩瀬文庫本)すべてを校合して【校異】を示し、校訂をくわえた【本文】を掲げ、【訓み下し文】【大意】を加え、さらに若干の【語釈】と【考察】を施したものである。

■ 2021年度 出版予定 ■

『藝文類聚(巻五十) 訓読付索引』	2022年2月発行予定
『中国古代史研究—天文・暦学を中心として—』	2022年1月発行予定
『大野盛雄 フィールドワークの軌跡Ⅲ』	2022年2月発行予定
『虞初新志 訳注 巻一～三』	2022年2月発行予定

■ 2021年度『東洋研究』発行予定 ■

220号	2021年7月26日発行
221号	2021年11月25日発行予定
222号	2021年12月25日発行予定
223号	2022年1月25日発行予定

第216号 (2020年7月25日発行)

- 高木 ゆみ子／狂歌と出典—「Trésors de l'estampe japonaise SURIMONO (日本浮世絵版画の至宝摺物)」における狂歌の翻訳をめぐって—
- 笹生 美貴子／豊子懺訳「源氏物語」「桐壺」巻の注釈態度試論
- 中村 士／啓蒙天学家朝野北水の「文化年間世界地図」
—漂流民津太夫らの帰国航路を示した世界図の新史料—
- 由川 稔／ロシアの政治経済思想における「ヨーロッパ」と「アジア」の止揚意識
～「ユーラシア主義」と「自由」をめぐる諸相(上)～
- 田辺 清／再考・レオナルド・ダ・ヴィンチと東方

第217号 (2020年11月25日発行)

- 渡邊 義浩／『隋書』経籍志の史学論
- 王 宝平／明代漢詩「国比中原国」の作者について
- ソレマニエ 貴実也／カーシャーン市の歴史的住宅と街区に見られる伝統的空間構成に関する考察
- 吉田 雄介／イランにおける多様な敷物消費
—日本からイラン・中東に輸出された岡山県産ポリプロピレン花むしろを事例に—
- 栗山 保之／ルーズナーマの資料的価値の分析 —アラブの航海活動研究の予備的考察—

第218号 (2020年12月25日発行)

- 松本 公一／『阿婆縛抄』の近世写本の生成と伝播
- 布村 浩一／古代日本漢詩における「題」—本文に先行し、支配するもの—
- ジラル フレデリック／『華嚴法界観門』の謎について
- 相田 満／「生き物供養」と「なんでも供養」の日中台 —その共通性と差異の特徴をめぐって—
- 岡倉 登志／岡倉天心をめぐる人々 —フェノロサ門下の友人たち(1) —牧野伸顕
- 篠田 隆／インド・グジャラート州における牧畜カーストの社会経済変化
—ラバーリー学校の第2次実態調査の事例を中心に—

第219号 (2021年1月25日発行) 『虞初新志』特集号

- 小塚 由博／『虞初新志』について
- 荒井 礼／『虞初新志』に見る張潮の垂流好尚
- 田中 良明／『虞初新志』書鄭仰田事より見る明末清初の析字
- 今井 秀和／『虞初新志』の日本受容 —昌平齋から鷗外、漱石、露伴まで—

この他の東洋研究所刊行物についてはホームページをご覧ください。

刊行図書取扱店

■(有)池上書店

〒175-8571 板橋区高島平1-9-1 大東文化大学2号館B1
TEL: 03-3932-7567 FAX: 03-3932-7544
E-mail: ike-book@smail.plala.or.jp

■汲古書院

〒102-0072 千代田区飯田橋2-5-4
TEL: 03-3265-9764 FAX: 03-3222-1845
E-mail: kyuko@fancy.ocn.ne.jp

■大東文化大学内購買部(株)進明堂書店

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
TEL: 0493-34-4430 FAX: 0493-34-5622
E-mail: info-daigakuten@shinmeido.co.jp

■東方書店業務センター

〒175-0082 板橋区高島平1-10-2
TEL: 03-3937-0300 FAX: 03-3937-0955
E-mail: tokyo@toho-shoten.co.jp

2021年度 東洋研究所 秋の公開講座のお知らせ 「アジアの民族と文化」

主催：大東文化大学 東洋研究所

日程・テーマ・講師	講義概要
<p>11月4日(木) 13:00～15:00 『中国の文字占い』 東洋研究所 専任研究員 准教授 田中 良明</p>	<p>中国では古くから占いが盛んに行われ、様々な占いが生まれてきました。そうした中で、中国固有の文字である漢字は、占いの方法として用いられ、占いの対象ともされていきます。本講座では、中国の文字占いが、他の占いや文字自体の変化、あるいは文字学の発展、そして言葉遊びや謎々などとともに展開してきた歴史を紹介し、今もなおのこる中国人の文字観にも触れたいと思います。</p>
<p>11月11日(木) 13:00～15:00 『アラブの船乗りたちの文化 —インド洋を往還した木造帆走船を 中心として—』 東洋研究所 専任研究員 教授 栗山 保之</p>	<p>『アラビアン・ナイト』には船乗りシンドバードという冒険譚がおさめられています。インド洋を駆けめぐり、たくさんの不思議に遭遇するシンドバードの物語をドキドキしながら読まれた方も多いことでしょう。本講座では、この冒険のなかで重要な役割を担っていた船をとりあげます。近代以前の船がいかなる構造をしていたのか、またどのように航海していたのかといった問題を考えてみます。</p>
<p>11月18日(木) 13:00～15:00 『中国共産党100年史 —党内の権力闘争』 東洋研究所 専任研究員 教授 岡崎 邦彦</p>	<p>1921年中国共産党創立から現在に至るまで、真相が未解明の事件があり、論争中の問題が数多くある。例えば、建国以前は中共創立者陳独秀の評価、反革命肅正問題、西路軍問題、西安事変など、建国後は朝鮮戦争、高崗・饒漱石事件、文化大革命の原因、林彪事件、四人組逮捕、胡耀邦の失脚、天安門事件などであり、その多くは中国社会主義の路線闘争とされた。しかし、実際には党内の権力をめぐる争いが主因であったことが多い。これら党内部の闘争、分裂要因を明らかにし、それを中共一党独裁の弱点として見直してみよう。</p>

■会場：大東文化会館 3階 K-302 研修室

■受講料：無料

■交通：東武東上線『東武練馬駅』下車徒歩3分

■定員：15名(先着順)

[問合せ先] 大東文化大学 東洋研究所

TEL：03-5399-7351 FAX：03-5399-8756 E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

※注意事項

- ・受付は先着順とさせていただきます。定員を超過した場合は、やむを得ずお断りの連絡を差し上げることとなります。あらかじめご了承ください。受付期間は10月11日(月)～10月15日(金)で、地域連携センターのオープンカレッジのパンフレットにも掲載します。インターネットメールのみにて受け付けます。
- ・駐車・駐輪はできません。お車、バイク、自転車でのご来場はご遠慮ください。

新型コロナウイルス感染状況次第では、開催の中止や日程変更等の事態が生じる可能性があります。講座の中止や変更等が発生した場合、東洋研究所ホームページにてお知らせいたします。

大東文化大学 東洋研究所 所報 No.75

2021年7月26日発行

印刷：(株)東京技術協会

編集・発行 大東文化大学東洋研究所

〒175-0083 東京都板橋区徳丸 2-19-10

TEL (03) 5399-7351 FAX (03) 5399-8756

E-mail: tokenji@ic.daito.ac.jp

URL <http://www.daito.ac.jp>